

目指す福祉と目の前の福祉

老人福祉、障害福祉、保育…さまざまな形のある福祉の世界は、私たちの知らないことがまだまだたくさんあります。今回は、県内で福祉を学ぶ学生3人と福祉の現場で働く社会人2人に集ってもらい、自分の学生時代のエピソードや現役学生へのアドバイス、これからのことなどホンネで話をしてもらいました。

福祉に興味を持ち始めたきっかけ

渡部：入学して授業を受けたら、今の友達の話聞くうちに福祉って面白いな、楽しいなと思うようになりました。

稗田：はつきりとしたきつかけはないんですが、浪人中に何がしたいか模索する中でいろいろな人に出会う機会があった。

福祉に携わってる人の雰囲気は惹かれた

加藤：小学校の頃に発達障害の特徴がある学校の先生からの助言があり、病院でADHD、自閉症、学習障害と診断を受けました。そのため小さい頃から身近に福祉があつて延長で福祉の中に自分がある感じでした。

土屋：学生の頃は何をしたいって明確な目標はなく、なんとなく保育士を取ろうかなと。単位と資格が取れば、程度の気持ちでしたが、勉強していくうちに、福祉の世界に興味が出てきたのを覚えています。養護施設でアルバイトをしていたこともあつて、何かしら福祉の仕事に関わりたいなと当時は思っていました。

井上：地元岐阜県の2年で介護福祉士が取れる学校に行きましたが、土屋さんと同じく資格が取得できればいいと遊んでばかりでした。

自分に合った職場を見極めるポイント

どうやって進路や就職先を決めたんですか？(渡部)

井上：実習先の中から就職を決める人も多かったですね。収入や通勤など額面上で決める部分もありますが、職場の雰囲気は左右されると思います。自分に合った職場を探すなら、見学などに行つて雰囲気を確かめることが大事。一緒に働くのは現場の職員ですから、雰囲気や環境が自分に合うか見極める必要があります。

土屋：見学に行くだけでも、職場の雰囲気って意外と伝わってきます。自分が何をしたいのか、その職場でしたいことができるのかも考えておいた方がいいです。方向性が違えば自分がやりたいことを叶えるのは難しいですから。したいけどできない、やり方を変えたいけど変えられない。そうした違和感を抱くと歯車がズレてきます。

井上：ステップアップも含めて、自分がどこを目指して仕事をしたいのか決めておくのは大切です。

福祉を発信できる

実際の現場ってどうなんだろうとか、働いている人の想いなど普段は知れないことが聞いてよかったです

学びが多い時間でした。素敵な方々と出会えてよかったなって心から思います

お2人がどう生きてきて、どういった経験をしてきたのかも詳しく聞いてみたいです。



山梨県立大学 人間福祉学部コミュニティ学科 3年

カトウ カイト 加藤魁人さん | AGE: 23 |

ワタベ 渡部みかんさん | AGE: 20 |

ヒエダ タツヤ 稗田竜也さん | AGE: 22 |

自身も ADHD、自閉症、学習障害を持ち、幼少時に支援を受けたことをきっかけに福祉の道へ。

社会福祉士、精神保健福祉士取得に向け勉強中。最近は、地域づくりに興味を持ち始めたそう。

分野は絞らず福祉全般を視野に入れながら、県内外問わずさまざまな事業所やイベントに参加中。

土屋：積極的に情報を集めにくくとも大切です。マルシェなどのイベントに事業所が出店することも多くなったので、雰囲気を見るチャンスも見学だけではありません。より多くの人の話を聞くことで、方向性が定まったり求人には載っていない情報なども聞けると思っています。

先輩から学生へ

まずは勉強！

井上：現場に就くと専門性が高く、学校で出た例題より複雑な人はかりと痛感しました。僕の働く介護施設では、本当に複雑な事情を抱えた人が相談に来るため基礎知識がないと正確に理解できないし、専門用語が当たり前になり飛び交つので、話についていけず苦労しました。知識がないと利用者さんの不利益にも繋がるので、しっかりと勉強しておけばよかったと後悔の連続です。

土屋：社会に出るとすべてを教えるくれる人はいません。失敗から学んだり、自分で調べることが多いです。学生の時は、先生や仲間もいるし、1から10まで教えてもらえる環境が整っているけれど、職場は享受するのではなく自分が提供する側なので、学生時代に勉強のペースを固めるのはとても大事ですね。また、時間が限られるのも社会人の宿命。遊べる

のも学生のうちだけで、勉強できるのも学生のうちだけ。大人になると勉強する場は限られるし、時間の確保も難しいです。やりたいと思っただけは、今やっただ方がいいよと声を大にして言いたいです。

今の目標、やりたいこと

井上：生活課題を持つている人の地域移行を担当していますが、施設を出るのが難しい人を関係機関と連携して地域移行に繋げられた時は感動します。多種多様な事情を抱えた人たちと関われる仕事は面白いですし、やりがいを感じています。

土屋：現在、就労支援で食品加工を担当していますが、苦手なことが困難なことがあっても、使う器具ややり方の工夫次第で希望は叶いますので、寄り添った提案ができる支援員になりたいです。

加藤：社会福祉士の資格取得を目指していますが、大学院に進んで、発達障害についてさらに研究をしたいと考えています。自分が障がい

利用者さんのやりたいことを叶えてあげることが一番の目標。(土屋)

福祉と地域を応援したい

これからも

こういう機会がまたあればもっと核心に迫った話もしたいですね。

課題やこれからのことをしっかりと見据えていたので、自分の夢をみつけて羽ばたいて



多くの利用者さんをサポートしていきたい(井上)

イノウエ シュウセイ 井上修成さん | AGE: 24 |

ツチヤ ミユ 土屋美優さん | AGE: 32 |

社会福祉法人光風会 甲州市鈴宮寮 指導員・支援員 身体や精神に障害がある方や生活保護を受ける方などが生活扶助を受ける介護施設で、必要に応じた訓練や相談、連絡調整などを担当。

合同会社カナエール 創造工房くわの家くわの家ミラフレンズ、ステラフレンズ 支援員 就労継続支援 B 型と放課後等デイサービスの施設を受け持ち、食品加工等の就労支援から、療育サポート、楽しく過ごせる環境づくりを行う。